

第3回 “夢ブック” 読書感想文コンクール入賞作品

(感想文は、原文のまま掲載しています)

【『夢』 いっぱい賞 (最優秀賞)】

大野小学校 辻 由記子 (つじ ゆきこ) さん

「おかあさんのまほうのおうかん」をよんで

つじ ゆきこ

しょうくんはなきむしのおとこのこでした。

そんなしょうくんが5さいのたんじょうびにおかあさんからまほうのおうかんをもらいました。それは、なみだがピタッととまるというまほうのおうかんでした。しょうくんはぼたんがとめられなくても、ころんでも、いぬをみても、きれいなおかずも、「まほうのおうかん、まほうのおうかん。」といってなみだをぐっところえました。わたしもそんなまほうのおうかんがほしくなりました。わたしもおなかがいたいとき、おねえちゃんとけんかをしたとき、なくからです。ピタッととまったらしかられないからほしいです。

でも、しょうくんは、まほうのおうかんをおかあさんにかえます。そつえんしきでおかあさんがないからです。しょうくんがまたなきむしにならないかちょっとしんぱいです。でもきっとだいじょうぶとおもいます。おかあさんがないときすぐおうかんをかえせたからです。えらいです。わたしもこれからはがんばってなかないようにしたいとおもいました。

【『夢』 ときどき賞（優秀賞）】

黒江小学校 中家 和香（なかいえ わか）さん

すきなこと

なかいえ わか

ぼくがすきなこと、やってみよう。さいしょに、かがみだよ。つながるろうかみたかったよ。いっばいわたしがいたよ。だんだんこびとみたいにとおざかっていったよ。

つぎに、いろみず。ようちえんのころ、みずを、すくなくしたらこくなかったよ。みずをすくなくするのがこつだよ。わたしは、かたてのちっちゃいふらいぼんで、はっぱや、おはなをいれて、あそんだよ。そしてぺっとぼとるにいれていえへもってかえたよ。そして、わたしはいえのげんかんへかざったよ。

さいごにばけつまわし。さいしょは、できなかったけど、だんだんできていったよ。しっばいばかりでみずまきみたかったけど、さいごは、せいこうさせたよ。うれしかったよ。

ぼくがすきなことをよんでわたしはこれからもすきなことをじっけんしたり、いろんなことをしたいな。

中野上小学校 浦中 海友（うらなか かいと）さん

「ぼくがすきなこと」をよんで

うらなか かいと

ぼくは、このほんをよんでたのしそうなのでやってみたいなとおもいました。

ぼくは、あさがおでつくったいろみずと、あめをぺっとぼとるでうけたり、ばななをたてにわってたべたり、したじきでかみのけをたたせたりしてまねをしました。

しょうがっこうでならったいろみずのこともほんにのっていました。ほかのはなでもできそうだとおもいます。かみのけがたったのは、せいでんきかあせでくっついていのかなとおもいました。ぼくもぷうるにながくはいると、てがしわしわになるのでおじいさんのきぶんになりました。

ぼくもふしぎなこと、おかしなこと、おもしろいことがだいすきです。

ぼくもわくわくすることをやってみたいし、もっとはっけんしてみたいとおもいました。

【『夢』きらきら賞（奨励賞）】

日方小学校 河野 圭伸（かわの けいしん）さん

「ともだちやもんなぼくら」をよんで

かわの けいしん

3にんがよそのいえにかつてにはいつて、むしとりをしてカミナリじいさんにおこられました。ヒデトシだけがひとりにげたけど、つかまってしまいました。ひとりだけにげるのは、あかんとおもいます。のこりのふたりはかんがえて、たすけにいきました。「ええときだけのともだちとちがうしな。」ということぼが、とてもよかったです。いっしょにおこられにいきました。するとカミナリじいさんはわらってほめてくれました。ともだちをたいせつにしたからだとおもいます。ぼくも、ともだちをたいせつにしたいとおもいます。3にんは、もっとなかのよいともだちになり、カミナリじいさんともともだちになりました。ともだちっていいなあとおもいました。とてもおもしろいおはなしでした。

加茂川小学校 森下 雄心（もりした ゆうしん）さん

「ぼくがすきなこと」をよんで

もりした ゆうしん

ぼくがこのほんをえらんだのは、ほんのなまえがおもしろそうだったからです。

「ぼく」のまわりには、おもしろいこと、だいすきなことがいっぱいありました。

かがみとかがみをあわせるとできる、どこまでもつづくふしぎなトンネルは、いかいしてみたいなとおもいました。そのときに、できたトンネルにはいつてみたいです。

バケツにみずをいれて、ぐるぐるこぼれないようにまわすこともしてみたいです。きつとこぼれるとおもいます。

このほんをよんで、いちばんおもしろかったところは、「おふろでおなら。ぼこぼこってくさいけど、おもしろい。」というところです。ぼくは、したことがないけれど、きつとくさいとおもいます。

ぼくも、このほんの「ぼく」のように、おもしろいことを、たくさんみつげたいとおもいます。